

# エバ工業

# ベトナム工場増強

## 建屋新設、能力2割拡大

工作機械の周辺装置などを生産するエバ工業（本社三重県東員町穴太2-15、中村研社長、電話0594・86・1500）は、ベトナム工場の生産能力を2割増強する。新建屋を建設して来春の稼働を目指す。投資額は建屋の建設と設備機械で最大7億円程度になる見込み。得意先の増産に対応し、迅速な生産供給態勢を構築する。

（四日市・榎田宏行）

ベトナム工場は、ベトナムの子会社が運営。ハイフオン市内の土地と工場、倉庫を賃借している。昨年11月、既存工場に隣接する約5千平方メートルの土地を新たに賃借した。延べ床面積約3千平方メートルの建屋を建設する。手狭になっていた塗装工程や組み立てラインを拡張する。

増設する工場の稼働や設備機械の更新などで生産能力を現行比2割高める。環境志向の高まりで需要が伸びている米重電大手向け風力発電装置の主要構成部品を中心に生産を増やす。

エバ工業は2003年にベトナムへ進出した。現在、約480人が働いている。ベトナム工場の製造品目は

風力発電装置部品のほか、工作機械で切削加工した部品などを自動搬送する装置「パレットストッカー」や、マシニングセンターの工具を収納する「ツールマガジン」など。パレットストッカーやツールマガジンは日系メーカーなどへ納入している。

ベトナム事業は昨年、新型コロナウイルスの影響で

日系メーカー向けを中心に受注が減少。20年12月期の売上高は前期比2割落ち込んだ。

21年12月期は約4割増の2500万ドル強（約27億円強）を見込む。風力発電装置部品の受注の伸びや、有機EL製造の機械部品などが堅調に推移するとみて、2年ぶりに過去最高を更新する見通し。中村社長は「ベトナム事業の今年1～3月までの月間売り上げは堅調に推移している。工場の増設で取引先の需要増に 대응する」と話している。



工場を増設するベトナム工場の外観